

血液検査部門

・血液検査室

○血液検査室では、血算、末梢血液像、凝固・線溶系、骨髓像の検査を実施しています。

○血算については、[迅速検査システム](#)により採血から1時間以内に検査結果が報告されています。

・主な検査項目

- 1) 血算
白血球数、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、MCV、MCH、MCHC、血小板数、好中球数、好酸球数、好塩基球数、単球数、リンパ球数、網状赤血球数
- 2) 末梢血液像
白血球分類、赤血球・白血球・血小板形態の観察
- 3) 凝固検査
PT、APTT、フィブリノゲン、ATⅢ、PLG、PC
- 4) 線溶系分子マーカー
FDP、Dダイマー、TAT、PIC
- 5) 骨髓像分類
骨髓液標本や末梢血標本の特殊染色
ペルオキシダーゼ染色、エステラーゼ(二重)染色、PAS染色、鉄染色、アルカリホスファターゼ染色(NAPスコア)

・基準範囲と検査の意義

検査項目名	正式名	基準範囲	単位	出典*	解説
WBC	白血球数	3.30~8.60	$\times 10^3/\mu\text{L}$	E	血液中の全ての白血球総数を示しています。感染症や外傷、種々の炎症、血液の病気で増減します。
RBC	赤血球数	男 4.35~5.55 女 3.86~4.92	$\times 10^6/\mu\text{L}$	E	RBC は血液中の赤血球数を示します。Hb は赤血球内に含まれるヘモグロビンの総和を示します。
Hbg	ヘモグロビン	男 13.7~16.8 女 11.6~14.8	g/dL	E	Ht は血液中で赤血球の占める容積の割合です。RBC、Hb、Ht とも貧血の指標となりますが、医師は特にHbを重要視します。この3項目とも男性と女性で基準値が異なります。
Ht	ヘマトクリット	男 40.7~50.1 女 35.1~44.4	%	E	

※基準範囲の出典:A.メーカーの添付文書 B.自施設で算出 C.学会の臨床判断値

D.専門医との協議 E.JCCLSの共用基準範囲 F.文献 G.その他

検査項目名	正式名	基準範囲	単位	出典*	解説
MCV	平均赤血球容積	83.6~98.2	fL	E	MCV は赤血球の大きさ、MCH と MCHC はヘモグロビンの濃さを示しています。これらの数値をくらべると、どのタイプの貧血なのか判断できます。
MCH	平均赤血球血色素量	27.5~33.2	pg	E	
MCHC	平均赤血球血色素濃度	31.7~35.3	g/dL	E	
PLT	血小板数	158~348	$\times 10^3/\mu\text{L}$	E	血管に傷がついて出血をきたしたとき、血小板は出血を防ぐ働き(止血)をします。したがって、血小板が極端に減少すると出血しやすくなります。慢性肝炎や肝硬変では減少します。血液の病気で増減します。
STAB	桿状核球	0.5~6.5	%	F	末梢血中の白血球は 5 種類あります。好中球(桿状核球、分葉核球)、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球です。好中球(桿状核球、分葉核球)は白血球中比率が一番多く、細菌感染症や外傷、種々の炎症、血液の病気で増減します。
SEG	分葉核球	38.0~74.0	%	F	
NEUT	好中球	39.7~74.2	%	F	
EO	好酸球	0~8.5	%	F	アレルギー性疾患や寄生虫感染、特殊な血液の病気で増加します。
BASO	好塩基球	0~2.5	%	F	特殊な血液の病気で増加します。
MONO	単球	2.0~10.0	%	F	特殊な血液の病気で増加します。
LYMPH	リンパ球	16.5~49.5	%	F	伝染性単核症などのウイルス感染症や特殊な血液の病気で増加します。

※基準範囲の出典:A.メーカーの添付文書 B.自施設で算出 C.学会の臨床判断値

D.専門医との協議 E.JCCLS の共用基準範囲 F.文献 G.その他

検査項目名	正式名	基準範囲	単位	出典※	解説
PT-T	プロトロンビン 時間 (凝固時間)	設定なし	秒	—	血液が正常に凝固するか(外因系凝固因子機能)を調べる検査です。肝臓の働きが悪い時、抗凝固薬(血液を固まりにくくする薬)の効果を調べる時に用いられます。
PT-%	プロトロンビン 時間 (活性値)	78.7~123.1	%	A	
PT-INR	プロトロンビン 時間 (INR)	0.91~1.14	—	A	
APTT	活性化部分 トロンボ プラスチン 時間	27.0~39.5	秒	B	血液が正常に凝固するか(内因系凝固因子機能)を調べる検査です。特に血友病の検査には有用です。
Fib	フィブリノゲン 定量	183~349	mg/dL	A	フィブリノゲンは糊のように血液を固める働きがあり、このフィブリノゲンの濃度と機能を調べる検査です。肝硬変や血液の病気で減少し、感染症や外傷、種々の炎症などで増加します。

※基準範囲の出典:A.メーカーの添付文書 B.自施設で算出 C.学会の臨床判断値

D.専門医との協議 E.JCCLS の共用基準範囲 F.文献 G.その他